



2024.8.27

発行：嶺南教育事務所
TEL：0770-56-1309（代表）
FAX：0770-56-1391
MAIL：reo-k@chive.ocn.ne.jp

8/5『気になる子のサポート研修講座』を紹介します！

「誰一人取り残されない学校に～『不登校』を学び直す～」

奈良女子大学 教授 伊藤 美奈子 先生



不登校の背景の多様化、登校することへの社会の認識の変化、学校以外の学びの場の保障、など「不登校」を取り巻く環境は変化し、その対応は喫緊の課題となっています。そんな中で私たち教師が大切にしたいことを講師の先生の豊富なご経験を交えたお話を基に受講者の皆さんと考える研修講座となりました。

不登校の子どものころ

「どうして行けないかなんてよく分からない」
「だから聞かないで。追い詰めないで」
「学校に行かない私も認めて」
「突っ張っていても心の中は申し訳なさでいっぱい」
「復帰できてもいつ戻るかといつも不安…」



不登校の子どもの親のころ

「将来が不安」
「育て方が悪かったのか」
「今日は行くて言ったのに、裏切られた」
「私だって誰かに支えてほしい」



『誰一人取り残されない学校』に向けて

「アセスメントが何より大切」

子どもを様々な観点からしっかりと見とること。いろいろな人がいろいろな視点で。

「『ロープの先』を握っておく」

自分勝手に引っ張るのでなく、子どもの反応に敏感に、でも決して離さない、という教師の関わりを。

「次の一手を考える」

エンパワメントする対象を明らかにして、短い時間でもこまめなケース会議で一歩動き出す。

「支える人を支える」

保護者や担任などが抱え込まないように支援を。支援者のセルフコンパッションも大切。

「明日も通いたくなる学校づくりを」

発達支持的生徒指導の観点で未然防止につながる安心・安全であたたかな、ワクワクする学校に。



<受講者の「こんなこと大切にしたい!」「こんなことやってみます!」>

- タブレットを用いた心の健康チェック
- 多くの子どもと対話、多くの先生と対話
- 学び方の多様化
- Q-Uの見立てをいろんな先生と
- 子どもががんばったことへの適切な価値づけ
- SCの全員面談
- 職員室での雑談から「おや?」を見つけたらすぐに支援会議
- 子ども達の自治的活動を増やす
- 子どもの良かった点を保護者に伝えてエンパワメント
- 不登校傾向の子を多数の目で「1日観察」

受講者の声



子どもが抱えているものは一人一人さまざまである中で、とにかくいろんな目で見えたものを共有して手立てを考え、ていくことを繰り返していくことが大切なのだと感じました。

相談したくなる先生になりたいと心からそう思い、日々相談員をしています。そのような存在になるための在り方について再度考えるきっかけとなりました。

何よりも予防と未然防止が第一だと考えます。そのためには、風通しの良い教室、職員室の雰囲気づくり、子ども達への言葉かけと信頼関係を大切にしていき、子ども達の心や様子の受け止めをしっかりと行っていきたいと思います。

「不登校は取り返しのつかない挫折ではなく、立ち止まるターニングポイント」という言葉が心に残りました。何事もそのようにとらえらると心がふわっと楽になるんじゃないかなあと思いました。子どもの心を少しでも緩められる対応をしていきたいです。

《問い合わせ》

研修課 0770-56-1302

伊藤先生のご著書は事務所にて貸し出しております。ぜひお読みください。

